

平成 29 年度 学校法人三幸学園 仙台リゾート&スポーツ専門学校

自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 石川 好典

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 笠松 淳史

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

また、リゾスポ分野(オールリゾスポ)としてスケールメリット・トップシェアを活かした産学連携を推進していく。

以下を基本戦略として教育力向上を図っていく。

1. 教育内容の充実・独自性の構築
2. 就職実績の質・量の向上・拡大
3. リゾスポ・三幸学園のプレゼンスの向上

2. 29 年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

学校全体の共通目標として《関係の質の向上》を掲げ、「メンバーの一体化」「メンバー・講師の一体化」「講師間の一体化」を図っている。

また教務においては以下の内容の目標・計画を掲げて取り組んだ。

【教務目標】

「学校にも自分にも誇りを持った人材の育成」

【達成に向けた行動方針】

- ① 学校全体で「あきらめない教育」の価値を高め、統一した指導を実施する
- ② 授業前後の 3 分間を引き締める

【教務数値目標】

- ① 退学率 4%未満
- ② 精皆勤率 50%以上
- ③ 卒業生アンケート項目「本校の卒業生として誇れることは何ですか」における“教員スタッフ”の割合 50%以上

【継続した取り組み】

- ① 出欠管理の徹底
- ② 報告・連絡・相談の徹底

【29 年度目標に対する振り返り】

- ① 教務目標に対する振り返り

・「誇り」と言う言葉を様々な場面で紐づけながら教務を展開してきた 1 年ではあったが、到達する指標や基準の

明確さに課題感が残り、それぞれの感覚値に頼る場面も少なくなかった。

- ・全体を通じて目先の生徒指導のみに意識が向いてしまうことが多かった 1 年であり、30 年度に向け、広い視野で「教務」に向き合う意識を持つための契機となる年であった。

② 行動方針に対する振り返り

- ・年間を通じて「統一」を目指した挨拶の部分では注力した結果が目に見えてわかる一年であった
- ・教科担当教員との統一を強固なものにし切れなかった部分があった為、30 年度は情報共有の迅速化と明確な基準の目合わせを持って導きたい方向性を統一していくことを目指していく。
- ・授業前後の引き締めに関しては、朝礼など多くの教員が揃う場での発信を継続的に実施したが、概ね前期に偏ってしまったことと、事例の共有などより高みを目指した発信が不足していた。

③ 数値目標に対する結果と振り返り

- ・退学率:7.7%(30 名)
- ・精皆勤率:40.5%(1 年生:36.4% 2 年生:47.7% 3 年生:25.8%)
- ・卒業生アンケート結果:40%
- ・数字を追いかける教務ではなく、年間通じた取り組みが現れるのが教務の数値目標であるという認識を持ちながら取り組んできた為、伴わない数字に苦しんだ部分も少なくなかった。
- ・30 年度は同様の認識で進みながら、数字の変化に敏感になりクラスや生徒の変化として反応を逃さないようにさらに意識を高めていきたい。

④ 継続した取り組みに対する振り返り

- ・教務事務の導入により、管理が一本化されこれまで以上に正確かつ適正な管理が出来る様になった。
- ・更なる発展に向け、出席状況の適正な管理から読み取れる生徒情報や変化の兆しなど細やかな気付きに繋げ、共有していく情報源として活用を目指していく。
- ・生徒の出席有無に関する情報共有などに関しては、教科担当教員を含め迅速かつ活発に実施が出来たが、その他の情報伝達に関して後手に回る部分もあった為、30 年度は広義における「情報」として迅速に共有をし、教科担当と協働で教務の遂行に向き合っていく。

【学校関係者評価委員会コメント】

■寮ではどうなのか(高岸)

⇒6 月から退寮が数名でてきて、夏休み明けに多くでる。

⇒なるべく早い段階で、気付く・ケアするようにする。ケアをするのは寮母さんが多いが、様々なケースがある。

■退寮の理由は

⇒学校を退学するに伴い、発生する。

■退学示唆の段階で寮と連携を取ったほうがよいか

⇒あった方がよいが、どの段階で分かるのか。

⇒担任との関係性による。辞める意志を固めてきた学生と相談する学生がいる。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1

① 課題

教育理念の浸透は、学生には入学初期段階でのプログラムで入念に伝わっているが、保護者には入学直前のオリエンテーションの機会に限定されており、同タイミングで学園の概要や学校行事内容など、多くの内容を伝えるために、触れる時間が十分に確保できていない現状にある。

② 今後の改善方策

例年通り、保護者向け説明会の参加を促すと同時に、使用する資料の見直しを図り、より学校として伝えていきたい内容、理解の上でサポート頂きたい内容を精査し、保護者会としての価値を高める必要がある。

③ 特記事項

昨年度課題で挙がっていた、保護者会参加が出来ていない家庭へのフォローは、当日使用資料の送付を持って対応している。

【学校関係者評価委員会コメント】

・特に無し

(2). 学校運営

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4 ③ 2 1
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4 ③ 2 1
人事、給与に関する制度は整備されているか	4 ③ 2 1
教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4 ③ 2 1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4 ③ 2 1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4 ③ 2 1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④ 3 2 1

① 課題

コンプライアンス体制の整備に関しては規定等の制定が進んでいるが、認識の定着・徹底をはかる必要がある。業務作業効率化に向け、学園全体で導入されているシステム(office365 など)を最大限活用しきれていない。

② 今後の改善方策

法定や規則に基づいた業務の認識を全体会議などを活用し、定着・徹底していく。

現状の導入システムの効果を最大限発揮する為の情報収集・情報交換の場を設定する。

③ 特記事項

情報システムを活用した効率化(クラウド化・情報伝達・ライブ講義等々)は学園全体として取り組んでいる。

【学校関係者評価委員会コメント】

■業務作業の効率化について(笠松)

⇒業務の効率化がサービスの低下につながるのではないかとという危惧がある(高岸)

⇒取り組みはしているが、実際は難しい部分もある。「やめても、誰も困らない仕事」を精査している。良かれと思っ
てやっている事が実際には必要なのか考えさせている。(笠松)

(3). 教育活動

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	④	③	②	①
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	③	2	1
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④	3	2	1
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4	③	2	1
授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	③	2	1
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	③	2	1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	③	2	1
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	3	②	1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

① 課題

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修を体系的に実施していくことが必要である。

また、分野特性を活かせる人材育成だけでなく、人材確保・採用も検討していく必要がある。

小学校のプログラミング教育必修化に伴う環境の変化に向け、学校運営をする教員も ICT コンテンツの展開における知識の強化・研鑽に取り組む必要がある。

③ 今後の改善方策

スポーツ分野姉妹校全体でのスケールメリットを活かした業界との連携・企業との繋がり(教育課程編成委員会)を自校に落とし込むと同時に、その繋がりから関係者を招聘して関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修を定期的実施する。

現状導入されている ICT 教育コンテンツの正確な運用を目指し、問題点や運用上の課題感意見交換と払拭を行い、より質の高い教材運用を目指す為の意見集約を行う。

③ 特記事項

姉妹校全体として産学連携による教育活動の展開は方向性として持っており、リゾスポ全体での取り組みを如何に自校の日常の取り組みに繋げていくかの検討を進めている。

【学校関係者評価委員会コメント】

□小学校の教育環境の変化に向け、ICT に対しての知識を強化する必要がある。

□ICT で使用しているツールはあるのか

⇒どちらかといえば、アナログである。人の体を見るのはデジタルでは出来ない部分もある。学校では「人の体を見る」という事を忘れないで教育してほしい。(門間)

(4). 学修成果

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	就職率の向上が図られているか	4	③	2
資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
退学率の低減が図られているか	4	3	②	1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

① 課題

退学率に対して、増加し続ける退学者に対して年度途中から様々な策を講じたが、低減に繋げることが出来なかった。大きな課題として周囲の教員の関わり具合の強化が必要であると考え、以下に記載をする。卒業生に関しては情報を把握する手段や繋がりが属人的になっているため、学校として卒業後もキャリア形成の支援をするための繋がりを確保できるような仕組みづくりが必要である。

② 今後の改善方策

業界の活性化や卒業生のキャリア支援という視点から卒業教育や卒業生間の繋がり構築などの取り組みを学校単体ではなく、リゾスポ全体として進めていく。同窓会組織や SankoLink(同窓会サイト)の活用を推進する。

退学率低減に関しては、基礎の徹底で情報共有の速度を早め、確実に情報が行き届くようにする。

それぞれの事象に対して対応できる教員の協力を仰ぐなど一丸となって向き合える環境の整備に努める。

③ 特記事項

学園全体として卒業生・同窓会組織に関するプロジェクトを進めており、まずは WEB を使った情報発信の仕組みを構築している。在学中から認知できる周知も実施している。

【学校関係者評価委員会コメント】

・特に無し

(5). 学生支援

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2
学生相談に関する体制は整備されているか	4	③	2	1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
学生の生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1
保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
卒業生への支援体制はあるか	4	3	②	1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	②	1

① 課題

上記(4)同様、卒業後に関する取り組みが不足している。

ST 科 MD コースに希望者が多い医療機関での運動指導者求人、KS 科の幼児体育系の求人が不足している。医療機関では理学、作業療法士の求人になり、運動指導は AT が必須になるケース、幼児体育は関東にある企業の支部として存在している為、施設はあっても案内できる企業数が生徒の希望に対して足りていない状況。

③ 今後の改善方策

卒業生への対応＝社会人へのキャリア教育・職業教育の機会として認識し、構築していく。

同窓会リンクの認知拡大の為、直近の卒業生に関してはツイッターのフォローを積極的に促す

VQ 強化により不足している求人の充足を図る

④ 特記事項

三幸学園初期費用軽減&学費分割制度という日本学生支援機構奨学金制度を活用した学費分割制度を設定している。

キャリアを意識させる指導に力を入れた事により将来的に地方(地元)で勤務を希望する生徒も自身を高める為に関東への就職を希望する生徒が増え、関東求人が有効に使えた事で就職先の斡旋も安定した。

(29 年度は就職希望者のうち、関東に本社をおく企業に就職する生徒が半数を超えた)

学内セミナーの開催に力を入れ企業へ促しをしている結果、30 年度はここ数年のうち過去最高の開催数になっている

29 年度より三幸学園経済支援制度の運用を開始している。

30 年度より給付型奨学金・学生マンション奨学生制度の運用も開始している。

【学校関係者評価委員会コメント】

■卒業後、どうなっているのかの後追いは出来ているのか(笠松)

⇒現段階の課題である。人材バンク、同窓会組織の中で現在調査している。動き出しはしている。(伊勢)

□就職の企業選びの介入が必要になるのではないかと。またオープンキャンパスで卒業生による体験の機会を増やしても良いのではないかと。入口から出口より先を見据えて教育していくのも必要ではないかと。(笠松)

(6). 教育環境

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1

① 課題

防災に関しては 3.11 を踏まえて備蓄等の対策や大地震対応マニュアルの制定、また、緊急時対応に関するマニュアルも整備されているが、人的な訓練の実施について検討する必要がある。

在校生数増加に伴う、実習環境の拡充は内容の質を担保する観点でも必須である。

② 今後の改善方策

実習活動を通じて体得させたい能力など、学校教育を理解いただき協力体制を構築できる企業との連携を求めていく必要がある。

防災に関しては震災地としての認識を持って改めて見直しを図り、特に緊急時の対応や避難に関わる訓練を実施する。

③ 特記事項

平成 26 年 5 月新校舎竣工により大幅に教育環境の改善がなされ、実技系器機類の整備や全教室にプロジェクター設置など授業のビジュアル化が進んだ。東北エリアに留まらず、スポーツ分野の人材育成の環境として期待できる。

【学校関係者評価委員会コメント】

・特に無し

(7). 学生の受入れ募集

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	③	2	1
学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

① 課題

募集定員内での募集、宮城県等の規程の沿った広報活動・募集活動が実施されている。

18 歳人口減少が顕著に見られる東北地域において、どのように学生募集活動をしていくのか対策を検討する。

学納金を支払えないことを理由に入学を断念する家庭がある。

コース開講最低人数(5名)を超えない人数になるコースがある。

② 今後の改善方策

文科省からの就職実態(雇用形態)に関する通達に準じた表記等の対応を行う。

ホームページや SNS などを活用し、幅広く学生募集活動を行う。

学納金のサポート制度の拡充 ※(5)の学生支援にて記載

開講最低人数に達しないコースは、入学前に開講しない可能性がある旨を伝え、その了承を頂くようにする。

③ 特記事項

業界との連携により、この業界の魅力を発信し、優秀な人材が多く興味を持ってもらい、業界発展に貢献できるこの業界でのキャリアの見せ方、この東北エリアでの魅力ある働き方を提案できるよう検討していく。

【学校関係者評価委員会コメント】

・特に無し

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

昨年度に第 2 次中期計画を策定している。今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

【委員コメント】

・特になし

(9). 法令等の遵守

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	④	3	2	1
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	③	2	1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	③	2	1
自己評価結果を公開しているか	4	③	2	1

① 課題

関係法令にて義務化されている自己評価とともに評価結果の公開についても定例化させる必要がある。

② 今後の改善方策

自己評価ならびに学校関係者評価の結果からの運営改善とともに公開を進める。

③ 特記事項

産学連携による教育の充実を図っている中で職業実践専門課程への対応を視野に入れて法令を遵守する。

【学校関係者評価委員会コメント】

・特に無し

(10). 社会貢献・地域貢献

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	3	②	1

① 課題

教育環境の1つとしてスポーツ分野に関連したボランティア活動を積極的に推奨しており、業界との連携から場の提供と現場での教育理解を図った上で展開している。

25 年度から近隣の幼児を対象に生徒たちがサポートするスポーツ教室を展開し、大変好評を得ている。

行政関係の講座・教育訓練受託に関しては分野的にほとんどないため実施できていない。

② 今後の改善方策

学校という教育環境とスポーツ人材育成という実践環境を活かして地域や関係団体と連携した活動をより推進していく。

③ 特記事項

H26 年 5 月竣工の新校舎においてはスポーツ業界人材育成の教育環境を活かして地域に留まらず東北エリアにおいて人材育成の情報発信施設・人材交流施設を目指して運営を行う。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本評価の結果からは課題として浮かび上がっているのは「卒業後」と「分野特性のある人材」と「コンプライアンス」というキーワードとなっている。これまでは卒業生に対する施策が乏しかったが、学園全体でのプロジェクトを活用するとともに人材という観点からもキャリア教育という観点からも在学中から学校との繋がりを強化することが必要である。リゾスポ全体で同窓会組織(sankoLink)と人材バンクの相互リンクを強化し、卒後教育の拡充を図ると共に業界へ

実施日 平成 30 年 5 月 1 日

人材供給を行う事が求められる。

同窓会組織、SankoLink(同窓会サイト)の一層の周知・認知を推進していくことが課題である。

また、制度や規程に基づいたコンプライアンスを重視した学校運営を継続することも公益性の高い教育機関として重要課題である。

全体としては専門学校として職業やキャリアを重視して産学連携を意図した取り組みが進んでおり、よりリゾスポ全体での産学連携の動き(キャリア支援推進)と日常的なカリキュラム(産学連携カリキュラム改訂)とリンクして教育環境の充実を図ることで、より地域 NO.1. ONLY1の学校に近づけるものである。また、1. 学校の教育目標で掲げた基本戦略である「1. 教育内容の充実・独自性の構築」「2. 就職実績の質・量の向上・拡大」「3. リゾスポ・三幸学園のプレゼンスの向上」を推進していくことで教育力向上を図っていくことも重要である。

本校の対象が東北エリアであることを踏まえてエリア特性を活かした人材育成や社会貢献への取り組みを進めているが、今後も着実に1つずつ形にしていくことも重要な課題である。